

# マルワリード II、取水口建設を開始

ジャララバード周辺、帰還難民であふれる

異常少雨、2000 年に次ぐ記録、ドラエヌール下流は壊滅状態

事務局のみなさん、後藤・村上先生、

10 月 8 日、待ちに待った日が来ました。全機械力を取水口付近に集結させ、取水門・砂吐き・主幹水路・堰の基礎工事が開始されました。この日を目指して、事務所と現場が奔走、住民対策や資機材の調達、交通路の整備、堰と取水口付近の地形調査、各工事との折合い、設計の詳細が進められてきました。この取水堰が今期工事の最大の焦点です。

小生が午前 9 時に現場に着く頃には、掘削機 6 台、ローダー 1 台、ダンプカー 12 台、ローラー 1 台がすでに稼働していました。しかし、蜂の巣をつついた状態で、各チームがばらばらの動きです。声をからして必死の整理、午前 10 時までには各持ち場の分担を明確にし、一斉に動き始めました。言葉や数値は殆ど役立たず、一枚の鳥瞰図が威力を発揮しました。

この取水口は、コーティ・タラーン・カチャラ・ベラ村の数多の小取水口を一本化し、村落を川から守り、「安定灌漑＝安定農業」を保証する画期的なものです。これまで、PRT（米軍・地方復興チーム）、FAO（国連食糧農業機構）ら手掛けていますが、何れも成功を見なかったものです。折から、パキスタンからの難民送還で、アフガン東部は突然人口稠密地帯となっていました。おまけに今年は、おそらく 2000 年以来の少雨で、5 月から現在まで、雨の日が 4・5 日程度です。ドラエヌール下流域、ソリジ村、ブディアライ村の農地は、

ほぼ壊滅状態で、同様なことがスピングガル山麓で起きており、ソルフロッド郡やアチン郡の大部分が、完全な土漠に帰しています。

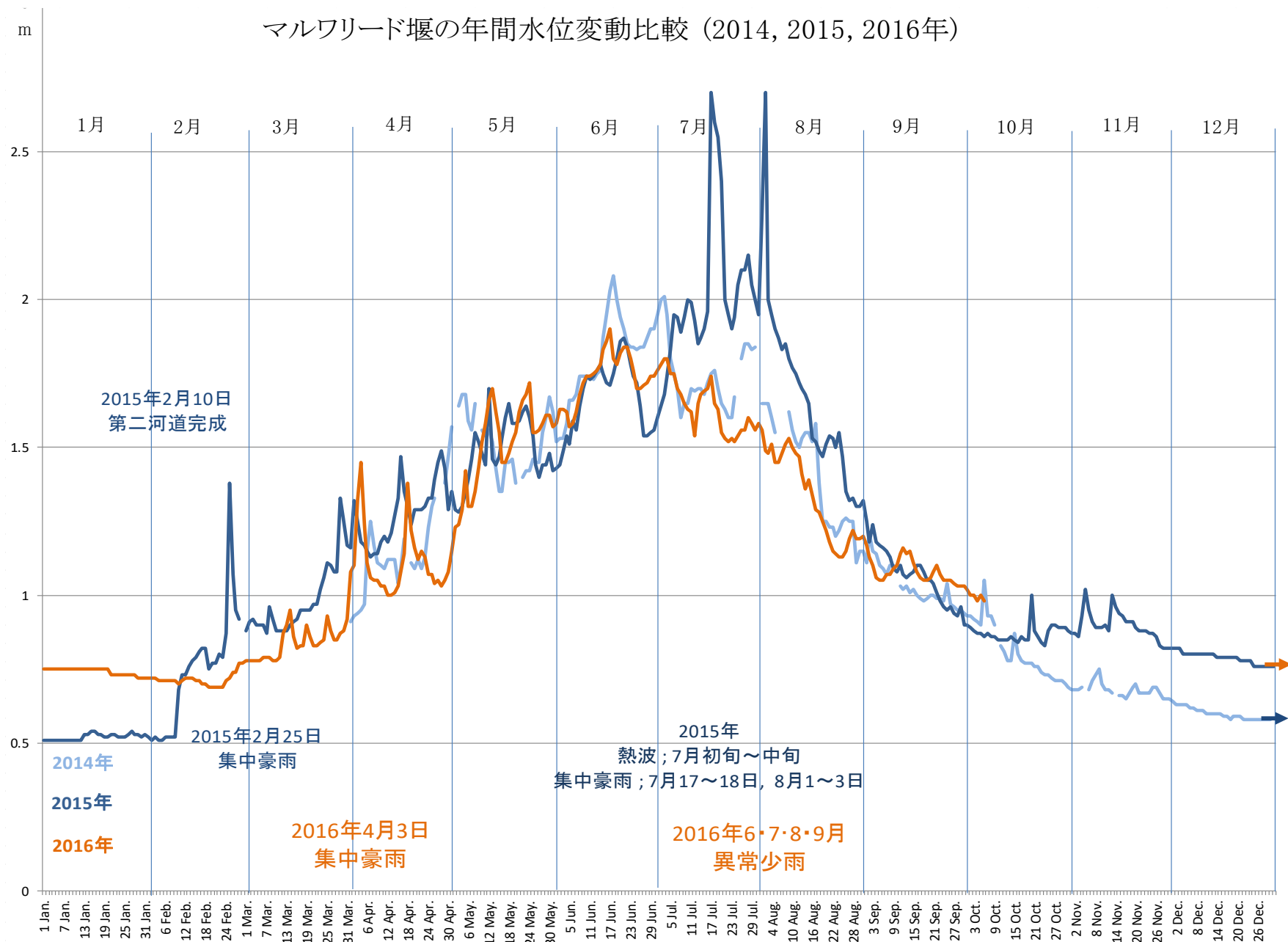
この作業地域でも、多くの難民が三々五々、河原にテントを張って暮らし、その数は日に日に増えています。タイミングといえばタイミングですが、飢餓迫る人々にとっては、4 年という工期は長すぎるのかもしれませんが。取水口さえできれば、後は臨時灌漑路を増やして何とかなります。人々の祈りを背負って、工事が始まりました。

今ジャララバード北部三郡（カマ、シェイワ、ベスード）は、州の中で最も人口が集中しています。帰還難民で同地出身でないアフガン人も流入しています。農作業の手伝い、バザールの小売商、リキシヤの運転手などをしながら、職（食）を得ることができるからです。ソルフロッドの住民も北部に移り始めています。今年の異常少雨が、16 年前の悪夢を呼び起こしています。

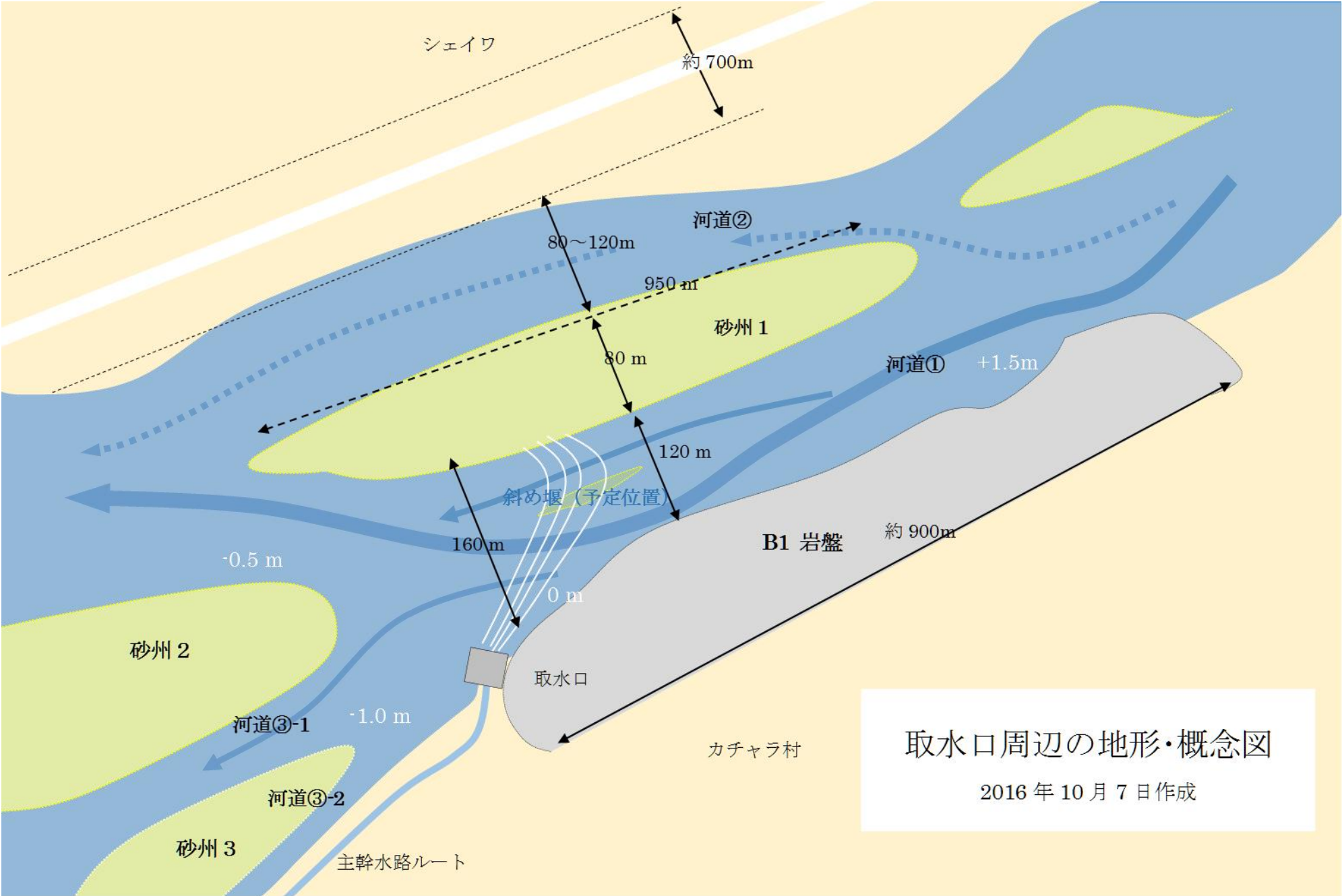
——おおよそこのような中での着工、当方も腹をくくり、全力を傾ける積りでおります。カシコート延長路 9.8 km も、準緊急工事にとらえ、来春までには着工します。大方のご協力を切にお願い申し上げます。

2016 年 10 月 8 日 記

異常少雨で、河川水は勢いを急速に落としている。水量は激減なのに、マルワリード堰の水位が例年より高いのは、堰の改良による。好機到来と見る。水門、砂吐  
きらの構造物は年内に仕上げ、堰は 12 月中に仮工事を終える。

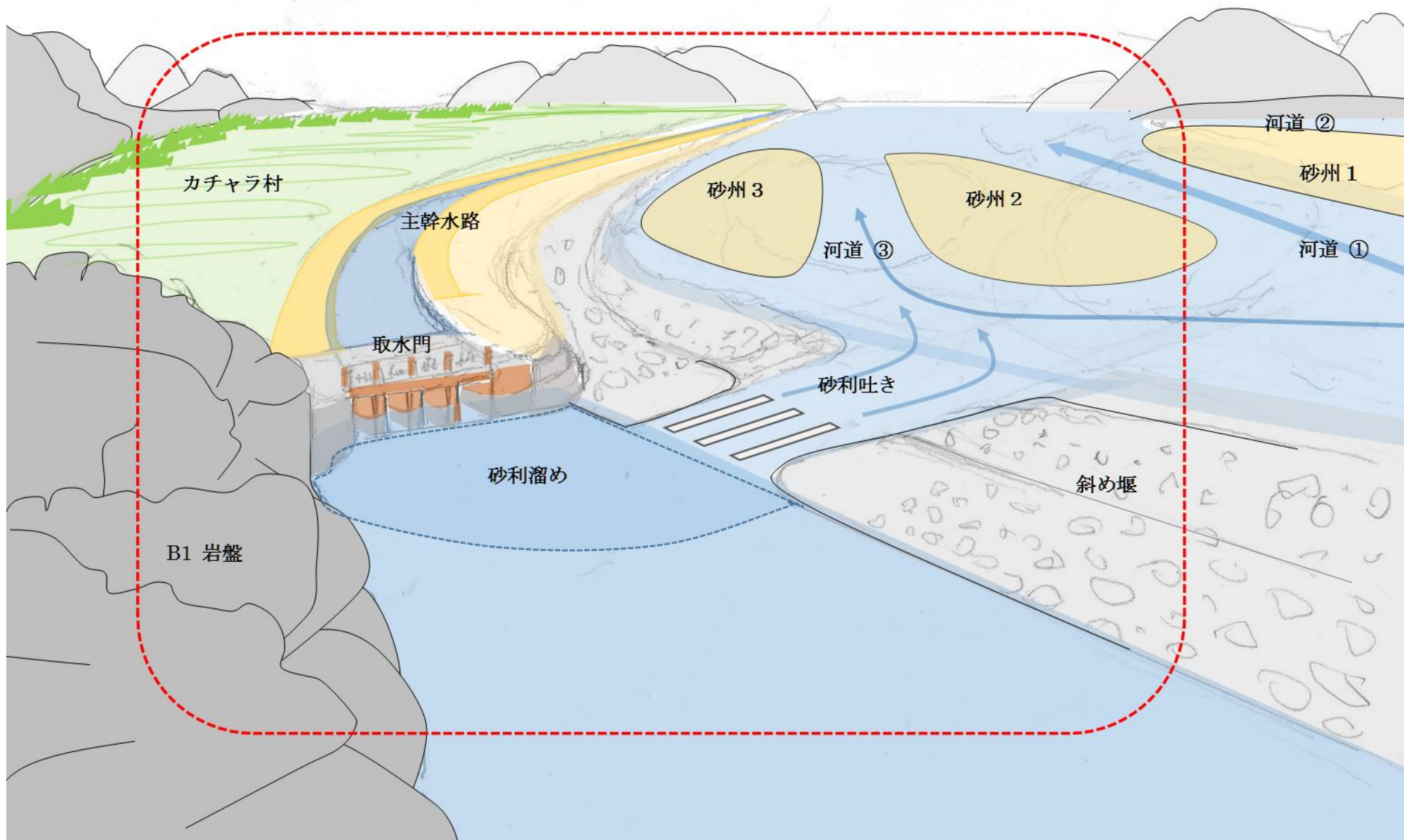


取水口付近の主な地形（別文書参照） 川幅（河川敷）は約 1 km で、主要河道がこの B1 岩盤に集中する。



現場の整理に力があった一枚。少し雑で、川向こうの岩盤の位置は正確ではないが、取水口付近は分かりやすい。(後で修正したものを提出します。しばらく、これで我慢してください)

### 取水口付近鳥瞰図



兵どもが夢の跡。石板には「PRT（米軍・地方復興チーム）寄贈。2006 年」とある。岩盤側の小水路はF A O（国連食糧農業機構）が手掛けたと、灌漑局は述べている。何れも河床低下と土砂流入で、建設後一年で機能を停止している。2016 年 10 月 1 日



B 1 岩盤から対岸（シェイワ）を望む。ガンベリ排水路の真向かいに近い。河川敷を入れると、クナール河の幅約 1 km、手前の河道①以外に、深い流れはなく、冬期には涸れる。河道①は、浅瀬をはさんで分かれている。2016 年 10 月 1 日



旧取水口の撤去作業。コンクリートは比較的しっかりしていたが、基礎が弱く、基部が洗掘されて倒壊したもの。2016 年 10 月 1 日



ここで40年以上渡しを営む船頭。生まれた時からここを離れたことがない。各場所の水深は、彼が全てチェックした。河道の動きや洪水高など、河の生き証人で、河については信頼できる。現在、見張り番としてPMSに雇用されている。西遊記のカップの沙悟浄は、クナール河辺りではないかとの説は信ぜられる。玄奘法師がカブール経由で帰途についたのは定説で、クナール河を渡ったのは確かだ。2016年10月1日



取水口から 500mは、捨て石工で護岸が施してあるが、直下が洗掘され、堤防線に沿って新河道が発生している。しかし、河川敷全体が広いので、派手な洪水流入は起きていない。沙悟浄船頭の証言と一致する。2016 年 10 月 1 日



B 1 岩盤の頂から取水口を望む。河道①が主流で深く、岩盤を離れて間もなく河道②と再び合流する。河道③は突堤型の堰と連続堤防に沿って、工事後に発生した可能性が強い。河道③も、約 1 km 下流で再び河道①に戻る。2016 年 10 月 1 日



10月1日から一週間、ひたすら砂利の埋立て地を張り出し、それを掘削してコンクリート構造物の基礎を作る。矢板はここでは使えない。苦肉の策。ただし、近傍の地層を確認してから施工している。河床は一般に大粒径の玉石で、その層は巨礫→岩盤に連続している。岩盤近傍では、ほぼ例外がない。2016年10月8日



取水口から 500mは、頑丈な護岸が捨て石工で施されている。しかし、下流端で洪水流入を許し、荒蕪地が広がっている。石材は切り出した角石を使っている。計画では、PMS 方式で流方向を河道中心へ向け、侵食・溢水を避ける。2016 年 10 月 8 日

